

KOMATSU

コマツが取り組んできたこと

株式会社小松製作所（コマツ） 常務執行役員 経営管理部長 稲垣 泰弘

このたびは、ディスクロージャー優良企業に選定いただき、大変光栄に存じます。おかげさまで、7回連続11回目の受賞となりますが、当社の日々の地道なIR活動が、アナリストの皆さまに高く評価していただいたものと考えております。

コマツがIRに関して取り組んできたことは、①経営トップ自らによる継続性、②一貫性、そして③改善という、ごく当たり前の活動です。この当たり前の活動を、今回評価いただいたものと考えています。

まず、継続性ですが、当社では、経営層を含むコマツグループの社員全員が、職場や現場で永続的に継承すべき価値観や行動様式を定めたコマツウェイを作成しています。これは、コマツの先人たちが築いてきた当社の強さ、信念、価値観、行動様式をまとめたものですが、そのマネジメント編で経営トップの心構えの一つとして、「全てのステークホルダーとのコミュニケーションの率先垂範」を謳っています。

当社では、1990年代より経営トップが自ら、IRを含めてステークホルダーとの直接対話に取り組んできました。当時の社長から数えますと現社長の大橋は4代目であり、実に20年以上に渡った活動となっています。この継続性も、社長が交代しても永続的に継承される行動様式として、IR活動がコマツウェイに明文化されているためです。

また、コマツは一貫性にも取り組んできました。

業績の良い時も悪い時も、常に一貫した開示や説明を心がけてきたことです。当社をとりまく建設・鉱山機械や産業機械の市場は、需要の変動が非常に大きく、かつ予測が難しいものとなっています。業績は需要の変動に影響されますが、そういった中でも、一貫性をもった説明に取り組んで参りました。

例えば、2013年に公表しました中期経営計画（3カ年）では、需要の前提が大幅に狂い、結果として3年後の実績は大きな計画未達となりました。しかし、常に、当初計画に対する差異を説明することで、前提との差で生じたものか、企業の努力不足が原因なのか、外部の方にも理解できる説明を心がけました。

最後に改善です。コマツは、品質管理（QC）の会社であり、常に継続的な改善を目指す文化があります。IRも例外ではありません。最近でも、ホームページ上での、KOMTRAXというテレマティクスを使用した建設機械の稼働時間の推移を開示することにしました。また、もう少し大きな改善として、ESGに関する説明会を開き、多くの方に参加して頂き、大変好評でした。今後も、継続性、一貫性を堅持しながら、ステークホルダー目線に立って、改善して参ります。

今後コマツウェイに従い、株主・投資家の皆さまを含む全てのステークホルダーへのコミュニケーションを充実して参りますので、更なるご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。